

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	建築学通論	担当教員	青木哲、下村波基、藤田大輔		
学年学科	1 年 建築学科	後期	必修	1 単位	
学習・教育目標	(D-2) 100%				
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 建築の三分野（環境・構造・計画）の学問的意義を例示しながら、建築学を学ぶための基礎を習得する。 具体的には以下の項目を目標とする。  ①建築環境知識の必要性の理解 ②構造・安全の必要性の理解 ③建築計画・設計の視点・必要性の理解		<b>成績評価の方法：</b> 中間試験：環境系 50 点、構造系 50 点 期末試験およびレポート：計画系 100 点（レポート 40 点、期末試験 60 点） 試験の総得点を得点率に換算して評価を行う。未提出の課題がある場合は、不合格とする。また課題提出は時間厳守とし、期限に遅れた場合は減点とする。  <b>達成度評価の基準：</b> 各種専門書及び教科書の内容と同等レベルの問題を試験などで出題し、下記のレベルまで達していること。総合して 6 割以上の正答レベルに達していること。 ①人間生活に必要なエネルギー・快適性に関する初歩的な知識に関する試験問題に 6 割以上の正答ができること ②建築物に作用する荷重やそれに耐えるための各種構造・構法についての試験に対して 6 割程度の正答ができること ③建築計画・設計に関する基本的知識に関する試験問題を 6 割程度正答できること ④近年設計された建築について自分の目で確かめ、適切にレポートでできること（6 割程度）			
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 建築の三分野の技術の必要性を考えながら学習すること。また、日頃から、建築作品・関連雑誌に目を通し、建築に触れる努力をすること。					
<b>教科書および参考書：</b> 特になし					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回：ガイダンス（建築の 3 分野）、環境とは？					
第 2 回：空気・熱・湿気環境と建築					
第 3 回：光・色・音と建築					
第 4 回：建築物に作用する荷重／各種構造形態の事例／試験架構の設計					C
第 5 回：構造とその形態／試験架構の作成					C
第 6 回：試験架構の作成と載荷試験					B
第 7 回：中間試験					
第 8 回：環境系・構造系のまとめ					
第 9 回：建築作品を観る際の注意点					
第 10 回：建築計画の役割 1					
第 11 回：建築計画の役割 2					
第 12 回：建築計画・設計の基礎 1					
第 13 回：建築計画・設計の基礎 2					
第 14 回：建築作品の解説					
第 15 回：レポート講評会（学生が自ら作成したレポートについて解説し、意見交換を行う）					A
<b>期末試験</b>					
第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	人間生活に必要なエネルギー・快適性に関する初歩的な知識に関する試験問題を正確に（8割以上）できる。	人間生活に必要なエネルギー・快適性に関する初歩的な知識に関する試験問題をほぼ正確に（6割以上）できる。	人間生活に必要なエネルギー・快適性に関する初歩的な知識に関する試験問題に正答できない
②	建築物に作用する荷重やそれに耐えるための各種構造・構法についての試験に対して8割程度の正答ができること	建築物に作用する荷重やそれに耐えるための各種構造・構法についての試験に対して6割程度の正答ができること	建築物に作用する荷重やそれに耐えるための各種構造・構法についての試験に対して6割程度の正答ができない
③	建築計画・設計に関する基本的知識に関する試験問題を8割程度正答できること	建築計画・設計に関する基本的知識に関する試験問題を6割程度正答できること	建築計画・設計に関する基本的知識に関する試験問題を6割程度正答できない
④	近年設計された建築について自分の目で確かめ、適切にレポートできること（8割以上）	近年設計された建築について自分の目で確かめ、適切にレポートできること（6割以上）	近年設計された建築について自分の目で確かめ、適切にレポートできない